

安保・戦争国会粉碎へ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2015年3月18日
No.278

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

武田君「無期停学」処分撤回裁判 3/13 最終弁論がうち抜かれる！

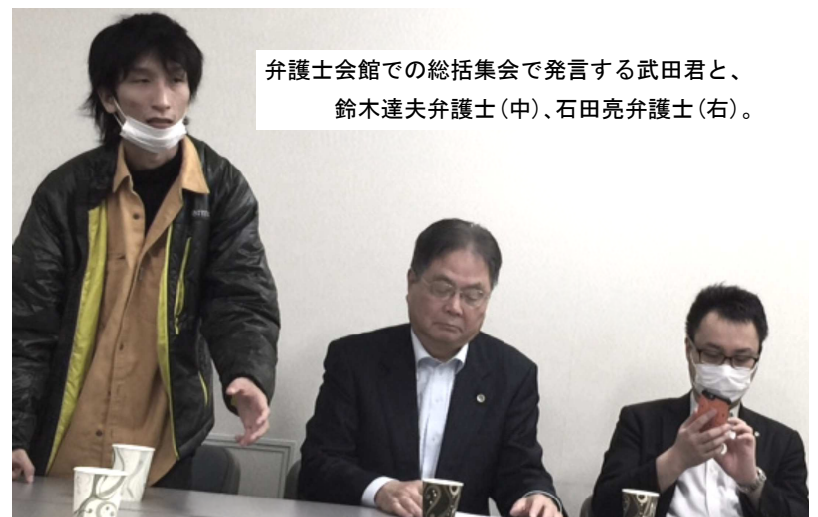
3月13日、法大文化連盟委員長・武田雄飛丸君の「無期停学処分」撤回裁判の最終弁論が行われた。

まず、石田亮弁護士が最終準備書面の陳述を行った。

第一に、御用学者である放射線影響研究所理事長・大久保利晃講演会（2012年10月）について。最終準備書面では「原子カムラと学者・研究者」の項で「大久保理事長は原子カムラの一員」であることを明快に論じている。その上で、実際に当日の大久保の講座に出席した法大生・山本一如君の証人尋問などからも、本件処分が「授業妨害」などではまったくないことを明らかにしている。

第二に、御用学生団体・学祭実行委の問題だ。学祭実は文化連盟の仲間に対し、「過去の暴力行為」などのデマをでっち上げて、学祭実主催の行事に参加させないことを一方的に通告する文書を送りつけてきた（2012年4月）。この文書送付以降、武田君が抗議活動を行ってきたことが「迷惑行為」として本件裁判の重要な争点になっている。しかし裁判を通して明らかになったことは、「通告文」が送付された時点で学祭実は、法大生に正式に承認されたのではないこと、また内容においても「過去の暴力行為」など一切なく、ただただ法大当局と学祭実による学祭規制強行への反対の先頭に立つ武田君を強制的に排除するためだけのものだったことが明らかにされた。

第三に、被告・法大当局は、2012年10月19日の法大キャンパス1000人集会を先頭とする武田君の行った一連の抗議活動が、法大への「名誉毀損」であり「迷惑行為」だと述べている。しかし、この処分は「2006年3・14弾圧」以来の、学生運動つぶし（126人逮捕－34人起訴－13人重処分）の一環であることは明白だ。しかも裁判全体を通して明らかにしたことは、武田君が2010年の入学直後に文化連盟の仲間からビラを受け取り会話をしただけで、正体不明の弾圧専門職員から「お前はアカだ！」などと罵声を浴びせられ、学生証チェックや盗撮の対象となっていたことだ。この一点をとってみても武田君の抗議活動は正当なもの



であり、正義の行為であることは議論の余地がない。

第四に、処分に至る手続きに関しても、国際文化学部・鈴木学部長（当時）による武田君への呼び出しは、虚偽の理由による「アリバイづくり」にすぎず、一切武田君の意見には耳を傾けなかったどころか法大当局・学祭実への批判をやめよと強要するものであり、きわめて偏った意見にもとづいた処分であることが浮き彫りにされた。

続いて、武田君が怒りの意見陳述を行った。武田君は現在の福島の実況、そして広島・長崎への原爆投下以来の国家権力をあげた内部被曝問題の抹殺の歴史を明らかにし、その国家的犯罪を中心に担う放影研理事長・大久保講演を開催した法大は「原子カムラの一員だ」と一刀両断。そして「時代は戦争に向かっている」と述べ、政治弾圧としての「無期停学」処分の不当性を明瞭にするとともに、新自由主義と闘う全世界の労働者民衆と団結し、本件処分をうち破ると断固たる宣言を行った。弁護士と武田君の陳述は法廷を圧倒した。被告法大側の弁護士はうなだれるばかり。次回判決に、許し難いことに裁判長はこれまで一回も使用していない警備法廷を指定してきた。不当判決策動は明らかだ。これは敵の危機のあらわれであり、運動の拡大でひっくり返すことは可能だ。

今回は、安保・戦争国会まっただ中の6月29日（月）11時。大結集で不当判決を粉碎しよう！（首都圏学生・Y）

◆3/11集会での福島大・樋口正太郎君の発言

2月3日に福島大キャンパス内で不当逮捕された私たちの仲間は、20日後に不起訴で釈放されました。「暴行」の事実などなかったのだから当然です。

この逮捕の背景には何があるのか。私としては、ありもしない「暴行」をでっち上げ、警察と大学当局に通報し逮捕させた反動学生が許せない、謝罪させたいという思いはもちろんありますが、根底にはやはり、福大当局の学生支配があります。私たちがキャンパス内で活動をするようになって以降、福大当局は「反原発などを語る過激派団体に注意」という内容の掲示物や看板をつくり、学生を反原発活動から遠ざけてきました。担当教官や親を利用して活動をやめるように言ってきたことも何度かありました。こうした大学の反原発運動つぶしが、学生に「原発に反対することは過激だ」という意識を植えつけてきたのです。現在、安倍政権が原発再稼働政策や戦争政策を進めています。これに反対して学生が立ち上がることは当然のことです。その反対の声をつぶすことは、原発再稼働や戦争に加担することです。

大学のこのようなあり方は絶対に間違っています。逮捕の後、私たちは全国の学生とともに抗議活動を行ってきました。大学内に警察を入れるなど逮捕に加担した大学当局への抗議集会では、当局は弾圧のために出てはきたものの、離れた場所から見ていることしかできず、私たちの申し入れ書をあっさりと受け取らざるをえないところまで追い詰められていました。

弾圧は運動をつぶせなかったばかりか、団結を拡大させてすらいいます。焦りにかられた福島県警は釈放の直前、私に対して2度に渡って出頭命令を送ってきました。私はこの不当な命令を拒否しただけでなく、仲間たちとともに福島警察署前で抗議行動を行いました。こうした抗議行動は敵を完全に追い詰め、私たちは見事不起訴奪還をかちとりました。しかし、この出頭命令に関して、警察がなぜ私の住所を知っていたのかを考えると、大学が警察に情報を流したからだとか考えられません。

先ほど述べた大学内の看板には、「大学が学生の住所等を他者に教えることはありません」と書かれているにも関

わらずです。警察と積極的につながり、大学に都合の悪い主張をする学生を売り渡す大学のあり方を変えなければいけません。そのためには、闘う学生自治会をつくる必要があります。「御用自治会」と化した今の福大学生自治会にとって代わる自治会を建設しなくてはなりません。今回の弾圧では、学生だけでなく労働者も怒りを示しました。弾圧をうち破る過程で団結の拡大がかちとられました。この団結の中に自治会建設の展望があります。福島から学生が立ち上がれば世の中は一発で変わるでしょう。4月新歓、5～6月安保国会決戦、そして福大学生自治会建設へ全国学生と団結して闘います！

◇3/11集会の感想＝富山大学・S

2011年の3・11福島原発事故から4周年の今年、初めて訪れた福島の地では労働者・学生の怒りが満ち満ちていたのをはっきりと感ずることができた。

今回の福島は吹雪に襲われたため、集会に参加できたのは20分程度になってしまったが、そんな短い参加の間の中からも、今の福島の現状に対する怒りはすさまじいものだった。ふくしま共同診療所の布施先生は、福島の子どもたちの深刻な小児甲状腺がんの現状、最近開かれた医師などを集めたシンポジウムでの成功、全国から毎月送られる支援金の力、「時間オーバー」の表示が出されつつも、熱く語って頂いたことは感じられました。

自分は吹雪の中、車に結構待機させられていたためイライラしていましたが、その怒りも含めてテンションが高く、かつ楽しみながらデモをやりきりました。

そんなこんなデモも終わり、帰る途中またしても大雪で4時間ぐらい電車で拘束されてました。外注化が進むと、無人駅が多くなり、こういった場合の対応も遅れてしまう。反原発行動に来たはずなのに、なぜか最後で外注化に対する怒りのインパクトの方が強くなってました。そんなこんなでとりあえずこの3・11反原発行動では、原発再稼働とJR外注化など安倍政権への怒りがかき立てられ、これからの学生運動によりいっそう力を与えてくれるような行動になったのではないかと感じました。4月新歓にむけて頑張ります！

【当面する行動方針】

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第9回公判＝判決

3月18日(水) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

●“市東さんの農地死守!” 3・29三里塚全国総決起集会

3月29日(日) 正午～ 成田市栗山公園(旧市営グラウンド)にて

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判・第10回＝判決

6月29日(月) 11時～ 東京地裁419号法廷にて ※傍聴券配布のため、10時半までに裁判所入口脇に集合してください。

